

2025年度

シラバス

理学療法学科 第3学年



学校法人 協栄学園

伊勢志摩リハビリテーション専門学校

理学療法学科 第3学年 目次

キャリアアップセミナー	1 ～ 2
理学療法管理学	3
理学療法評価学（Ⅱ）	4
検査・測定法（Ⅱ）	5 ～ 6
画像評価法	7
義肢装具学	8 ～ 9
骨関節障害理学療法学	10 ～ 11
神経障害理学療法学	12 ～ 13
内部障害理学療法学	14 ～ 15
OSCE	16 ～ 18
スポーツ理学療法学	19
地域理学療法	20
生活環境論	21
評価実習	22

【科目名】 キャリアアップセミナー

学 年	3年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	30時間	履修 時期	通 年
担当教員名 (基本情報 / 資格)	林 修平 (専任教員 / 理学療法士) 山口 倫直 (専任教員 / 理学療法士) 松枝 佑典 (専任教員 / 理学療法士) 山本 剛生 (専任教員 / 理学療法士) (非常勤講師 / 理学療法士)					コアカリキュラムコード	C-4-8 C-4-9 D-15 E-7 E-6-8 E-6-11		
						科目区分	専 門		

授業概要 (一般目標:GIO)	・社会と理学療法の関連性の理解や社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や態度を育てキャリア発達を促す。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション機器や福祉用具の見学・体験内容を説明できる。 ・評価実習先の特徴や担当した症例について評価内容や治療プログラムを発表できる。 ・基本動作とADLに関する実技指導を実践できる。 ・パフォーマンステストの実施方法を学び実践できる。 ・理学療法の対象となる主要な疾患に対し、評価・治療を実施できる。 ・高齢者に特徴的な病態生理、症候、主な疾患の病因、治療を説明できる。 ・モーションキャプチャーを学習し、身体運動の原理を説明できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	リハビリテーション機器 実習 ①	林
2	リハビリテーション機器 実習 ②	
3	評価実習前 オリエンテーション・準備①	
4	評価実習前 オリエンテーション・準備②	
5	評価実習前 オリエンテーション・準備③	
6	評価実習前 オリエンテーション・準備④	
7	評価実習前 オリエンテーション・準備⑤	
8	評価実習前 オリエンテーション・準備⑥	
9	評価実習前 オリエンテーション・準備⑦	
10	評価実習後 オリエンテーション	
11	評価実習後 実習報告準備①	
12	評価実習後 実習報告準備②	
13	評価実習後 実習報告準備③	
14	評価実習報告 発表 ①	
15	評価実習報告 発表 ②	
16	日常生活動作指導 ① 実技 寝返り・起き上がり・座位	松枝
17	日常生活動作指導 ② 実技 立ち上がり・立位保持・歩行	
18	日常生活動作指導 ③ 実技 移乗・トイレ動作	
19	日常生活動作指導 ④ 実技 更衣・入浴	

回	授業内容	担 当
20	日常生活動作指導 ⑤ 実技 まとめ	松枝
21	パフォーマンステスト ① Functional Reach Test(FRS) 片足立ち検査	
22	パフォーマンステスト ② Berg Balance Scale(BBS)	
23	パフォーマンステスト ③ 10m歩行 Timed up and go test(TUG)	
24	パフォーマンステスト ④ 6分間歩行距離(6MD) Borgスケール	松枝
25	パフォーマンステスト ⑤ CS-30 5回反復起立-着座テスト	
26	臨床1. 脳血管障害の特徴	山口
27	臨床2. 脳血管障害の姿勢・動作評価	
28	臨床3. 脳血管障害のリハビリテーション・ADL指導	
29	臨床4. 整形疾患(脊柱)	
30	臨床5. 整形疾患(四肢)	
31	臨床6. 呼吸器疾患	
32	臨床7. 動作分析1	
33	臨床8. 動作分析2	
34	老年期障害について	
35	フレイルおよびフレイルの特徴について	
36	サルコペニアとその診断・判別方法	
37	ロコモティブシンドロームについて	
38	モーションキャプチャー ①	山本
39	モーションキャプチャー ②	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 ■ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法 : □ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト ■ レポート □ 発表 ■ その他 基 準 : リハビリテーション機器実習における成果物で評価する。60点以上を合格とする。
教科書	特に指定なし。
参考書	「理学療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL)」(神陵文庫)
準備学習 (学習へのアドバイス)	1・2: リハビリテーション機器実習は、外部施設での実習となります。時間厳守で一般的なマナーを守り行動してください。 11～28: 実技・演習が中心の内容となります。知識・技術を習得できるよう積極的に取り組みましょう。 29～32: 講義が中心となります。これらは超高齢社会の日本では必ず知っておく必要があり、国家試験にも出題されています。

【科目名】 理学療法管理学

学 年	3年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	30時間	履修 時期	後 期
担当教員名	大形 弘樹				コアカリキュラムコード			E-2	
基本情報	非常勤講師				資 格	理学療法士		科目 区分	専 門

授業概要 (一般目標:GIO)	・医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	・理学療法の職場管理において求められる管理業務について説明できる。 ・職場におけるチーム医療の成すべき、マネージメントについて習得する。 ・リスク管理の方法や職場運営の方法について説明できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	総論	大形
2	病院の分類と組織	
3	専門職とチームケア	
4	社会保障のしくみ	
5	医療保険制度	
6	介護保険制度	
7	診療・介護報酬と収益構造	
8	保健・医療・介護・福祉の連携	
9	業務管理	
10	情報管理	
11	リスク管理	
12	感染症管理	
13	権利擁護と職業倫理	
14	教育管理	
15	政治政策への関与	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他
学習資源	□ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法：□ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト ■ レポート □ 発表 ■ その他 基 準：演習課題、レポートなど60点以上を合格とする。
教科書	特に指定なし。
参考書	特に指定なし。
準備学習 (学習へのアドバイス)	予 習：各回の授業内容に準じた部分を予習しておくが良い。 復 習：配布資料などを使用し、内容を確認する。

【科目名】 理学療法評価学(Ⅱ)

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	30時間	履修 時期	後 期
担当教員名	沖 和恵					コアカリキュラムコード	E-3		
基本情報	専任教員					資 格	理学療法士	科目 区分	専 門
実務経験	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。10年以上の臨床経験(介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。								

授業概要 (一般目標: GIO)	・各種疾患に応じた適切な評価方法、手技の選択を習得する。検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。
学生が達成 すべき目標 (到達目標: SBO)	・各症例により必要な情報収集項目、評価項目を抽出できる。 ・評価結果を踏まえ問題点の抽出、考察、治療プログラムの立案が出来る。 ・代表症例を基に考える過程を学び、説明できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	オリエンテーション、臨床的思考シート、振り返りノート、プランニング表、症例報告書	沖
2	症例検討、書類作成	
3	症例検討、書類作成	
4	問題点の予測の仕方	
5	動作観察からの問題点の抽出	
6	動作観察からの問題点の抽出	
7	評価項目の抽出	
8	症例検討・整形外科 ①	
9	症例検討・整形外科 ②	
10	症例検討・整形外科 ③	
11	症例検討・整形外科 ④	
12	症例検討・中枢疾患 ①	
13	症例検討・中枢疾患 ②	
14	症例検討・中枢疾患 ③	
15	症例検討・中枢疾患 ④	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法 : ■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト ■ レポート ■ 発表 ■ その他 基 準 : 筆記試験(60点以上合格)、授業態度、課題レポート等提出物を含め総合的に評価する。
教科書	「理学療法評価学」(金原出版)
参考書	「リハビリテーション基礎評価学」(羊土社) 「ベットサイドの神経の診かた」(南山堂) 「理学療法ハンドブック (第1巻、第3巻、第4巻)」(協同医書出版)
準備学習 (学習へのアドバイス)	個人別各症例課題において、理解できないときは積極的に教員に相談し、期日厳守で紙面提出のこと。理学療法評価(Ⅰ)で評価進行の概略を理解しているものとして進行するため復習をしておくとい。

【科目名】 検査・測定法(Ⅱ)

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	4単位	時間数	60時間	履修 時期	前 期
担当教員名	沖 和恵					コアカリキュラムコード	E-4-1		
基本情報	専任教員					資 格	理学療法士	科目 区分	専 門
実務経験	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。10年以上の臨床経験（介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーション等）を活かし、講義を行っている。								

授業概要 (一般目標:GIO)	・動作観察及び動作分析の実施方法を学ぶ。臨床での応用的な各検査・測定手技を習得する。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	・動作観察及び動作分析の実施方法を学び、述べることができる。 ・臨床での応用的な各検査・測定手技を習得し、実践できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	臨床における動作分析	沖
2	動作障害に関与する機能障害	
3	基本動作の姿勢制御	
4	静止姿勢のバイオメカニズム	
5	アライメントの変化と身体重心の制御	
6	身体重心を移動させるためのバイオメカニクス	
7	重心制御と股関節の両側性活動	
8	寝返り動作の概要、メカニズム、動作分析、評価	
9	寝返り動作を阻害する原因を推論するための評価	
10	寝返り 演習 ①	
11	寝返り 演習 ②	
12	起き上がり動作の概要、メカニズム、動作分析、評価	
13	起き上がり動作を阻害する原因を推論するための評価	
14	起き上がり 演習 ①	
15	起き上がり 演習 ②	
16	起立・着座動作の概要、メカニズム、動作分析、評価	
17	起立・着座動作を阻害する原因を推論するための評価	
18	起立・着座動作 演習 ①	
19	起立・着座動作 演習 ②	
20	歩行の概要、メカニズム、動作分析、評価	
21	歩行を阻害する原因を推論するための評価	

22	歩行 演習 ①	沖
23	歩行 演習 ②	
24	症例 演習 ①	
25	症例 演習 ②	
26	症例 演習 ③	
27	症例 演習 ④	
28	症例 演習 ⑤	
29	症例 演習 ⑥	
30	症例 演習 ⑦	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法：■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト ■ レポート ■ 発表 □ その他 基 準：筆記試験、レポート等により総合的に評価する。60点以上を合格とする。
教科書	「症例動作分析 ～ 動画から学ぶ姿勢と動作 ～」(ヒューマン・プレス)
参考書	「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」(MEDICAL VIEW)
準備学習 (学習へのアドバイス)	予 習：各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復 習：教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。

【科目名】 画像評価法

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	30時間	履修 時期	後 期	
担当教員名	熊谷 旬一郎					コアカリキュラムコード		E-4-2		
基本情報	専任教員					資 格	理学療法士		科目 区分	専 門
実務経験	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。10年以上の臨床経験（一般病院、整形外科クリニック、通所リハビリテーション等）を活かし、講義を行っている。									

授業概要 (一般目標:GIO)	・画像所見からその障害像を類推するため、基本的な画像の読み方を習得し、画像所見と疾患・障害の関係を理解する。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	・単純X線、X線CT、MRI画像の基礎知識を習得し、説明できる。 ・脳、脊柱、上肢・下肢、内臓における画像の読影力を高め、応用できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	画像読影の基礎知識	熊谷
2	上肢 画像の見方と評価 ①	
3	上肢 画像の見方と評価 ②	
4	上肢 画像の見方と評価 ③	
5	下肢 画像の見方と評価 ①	
6	下肢 画像の見方と評価 ②	
7	下肢 画像の見方と評価 ③	
8	脊柱 画像の見方と評価 ①	
9	脊柱 画像の見方と評価 ②	
10	脳 画像の見方と評価 ①	
11	脳 画像の見方と評価 ②	
12	脳 画像の見方と評価 ③	
13	脳 画像の見方と評価 ④	
14	内臓 画像の見方と評価 ①	
15	内臓 画像の見方と評価 ②	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法：■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト □ レポート □ 発表 ■ その他 基 準：小テスト20%(20点)＋筆記試験80%(80点)→ 60点以上を合格とする。授業態度 など総合的に評価する。
教科書	「PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方」(医歯薬出版)
参考書	「リハに役立つ脳画像」(MEDICAL VIEW) 「運動療法に役立つ単純X線像の読み方」(MEDICAL VIEW)
準備学習 (学習へのアドバイス)	講義開始時に小テストを実施する。グループワークでは、積極的な姿勢を望む。

【科目名】 義肢装具学

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	4単位	時間数	90時間	履修 時期	通 年
担当教員名 (基本情報 / 資格)	山村 太一(非常勤講師 / 義肢装具士) 松枝 佑典(専任教員 / 理学療法士)					コアカリキュラムコード	E-5-3 E-6		
						科目区分	専 門		

授業概要 (一般目標:GIO)	義肢・装具の種類と目的の理解を目標とし、上肢・下肢機能に起因する各障害に対する有用性について学ぶ。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	義肢の適合評価アライメント・異常歩行、疾患と装具適応・装具の調整と装着指導ができる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	装具学総論	山村
2	下肢装具の部品とその機能	
3	短下肢装具	
4	長下肢装具・股装具・膝装具	
5	靴型装具	
6	下肢装具のチェックアウト 講義	
7	下肢装具のチェックアウト 実習	
8	体幹装具、側弯症装具	
9	上肢装具と自助具	
10	車椅子、歩行補助具	
11	疾患別装具の処方 ① 脳卒中片麻痺の装具	
12	疾患別装具の処方 ② 整形外科疾患の装具	
13	疾患別装具の処方 ③ 関節リウマチの装具	
14	疾患別装具の処方 ④ 対麻痺・小児の装具	
15	プラスチック短下肢装具の採型実習	
16	切断と義肢の基礎知識	
17	早期義肢装着法と義足適合の流れ -アライメントの概念-	
18	大腿切断・膝離断の基本と義足構造	
19	大腿義足・膝義足のアライメント	
20	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造	
21	下腿義足・サイム義足のアライメント	
22	股離断・片側骨盤切除・足部切断の義足構造とアライメント	
23	下肢切断の評価 -問題点の抽出とその統合-	

回	授業内容	担当
24	下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法	山村
25	切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点	
26	義足装着理学療法と応用動作	
27	義手の分類と構造・機能	
28	上肢切断の評価と治療	
29	義肢装具の支給体系とチームアプローチ	
30	まとめ	
31	演習 ① 装具学総論	松枝
32	演習 ② 下肢装具の部品とその機能	
33	演習 ③ 短下肢装具	
34	演習 ④ 長下肢装具・股装具・膝装具	
35	演習 ⑤ 靴型装具	
36	演習 ⑥ 下肢装具のチェックアウト	
37	演習 ⑦ 体幹装具	
38	演習 ⑧ 側弯症装具	
39	演習 ⑨ 上肢装具と自助具	
40	演習 ⑩ 車椅子、歩行補助具	
41	演習 ⑪ 切断と義肢の基礎知識	
42	演習 ⑫ 早期義肢装着法と義足適合の流れ アライメントの概念	
43	演習 ⑬ 大腿切断・膝離断の基本と義足構造	
44	演習 ⑭ 大腿義足・膝義足のアライメント	
45	演習 ⑮ 国家試験問題	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 □ 実技 □ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他
成績評価 (方法・基準)	方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 ■ その他 基準：年2回の筆記試験(装具学・義肢学)および提出課題など総合的に評価する。 60点以上を合格とする。
教科書	理学療法テキスト「義肢学」(中山書店) 理学療法テキスト「装具学」(中山書店)
参考書	「装具治療マニュアル」(医歯薬出版) 「義肢装具テキスト」(南江堂)
準備学習 (学習へのアドバイス)	予習：歩行などの運動学、整形外科疾患など。 復習：配布資料と教科書を中心に理解を深める。 31～45は、演習課題と小テストを実施する。

【科目名】 骨関節障害理学療法学

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	4単位	時間数	90時間	履修 時期	通 年
担当教員名 (基本情報 / 資格)		玉木 孝人（非常勤講師 / 理学療法士） 岩崎 武史（非常勤講師 / 理学療法士） 熊谷 旬一郎（専任教員 / 理学療法士）				コアカリキュラムコード		E-6-1	
						科目区分		専 門	

授業概要 (一般目標:GIO)	・代表的な骨関節障害の理学療法を理解し、運動療法の実践を学ぶ。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	・上肢・下肢・体幹における骨関節障害を中心に理学療法の対象となる主な運動器系疾患の病態、 評価、治療について説明できる。 ・基本的な評価項目の列挙・評価の実施理学療法アプローチの立案が行える。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	組織再生・修復(1) 総論	熊谷
2	組織再生・修復(2) 炎症の評価と治療	
3	骨折と脱臼(1) 総論	
4	骨折と脱臼(2) 評価と治療	
5	骨折と脱臼(3) 高齢者の四大骨折: 橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折	
6	骨折と脱臼(4) 高齢者の四大骨折: 大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折	
7	骨折と脱臼(5) 高齢者の四大骨折: 高齢者の理学療法 評価と治療	
8	関節リウマチ(1) 総論	
9	関節リウマチ(2) 評価と治療	
10	末梢神経損傷(1) 総論	
11	末梢神経損傷(2) 評価と治療	
12	肘関節疾患に対する評価と治療(1)	
13	肘関節疾患に対する評価と治療(2)	
14	手関節・手指疾患に対する評価と治療(1)	
15	手関節・手指疾患に対する評価と治療(2)	
16	オリエンテーション・授業の進め方	玉木
17	股関節疾患における評価と治療①	
18	股関節疾患における評価と治療②	
19	股関節疾患における評価と治療③	
20	股関節疾患における評価と治療④	
21	股関節疾患における評価と治療⑤	
22	膝関節疾患における評価と治療①	
23	膝関節疾患における評価と治療②	
24	膝関節疾患における評価と治療③	

回	授業内容	担当
25	膝関節疾患における評価と治療④	玉木
26	膝関節疾患における評価と治療⑤	
27	膝関節疾患における評価と治療⑥	
28	足関節疾患における評価と治療①	
29	足関節疾患における評価と治療②	
30	肩関節疾患における評価と治療①	
31	肩関節疾患における評価と治療②	
32	肩関節疾患における評価と治療③	
33	肩関節疾患における評価と治療④	
34	肩関節疾患における評価と治療⑤	
35	肩関節疾患における評価と治療⑥	
36	頸部疾患 総論	岩崎
37	頸部疾患に対する評価と治療(1)	
38	頸部疾患に対する評価と治療(2)	
39	腰部疾患 総論	
40	腰部疾患に対する評価と治療(1)	
41	腰部疾患に対する評価と治療(2)	
42	脊椎手術 総論	
43	脊椎手術に対する評価と治療(1)	
44	脊椎手術に対する評価と治療(2)	
45	まとめ	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 □ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他
成績評価 (方法・基準)	方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 ■ その他 基準：各講師の担当範囲で各々筆記試験を行う。→ 60点以上を合格とする。 最終評定は、各講師の担当比率で計算し、合算する。
教科書	理学療法テキスト「運動器障害理学療法学Ⅰ」(中山書店) 理学療法テキスト「運動器障害理学療法学Ⅱ」(中山書店)
参考書	「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹」(MEDICAL VIEW) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器」(医学書院)
準備学習 (学習へのアドバイス)	講義だけでなく実技も交えて行います。実技は、実習室(治療実習室・機能訓練実習室)で行います。

【科目名】 神経障害理学療法学

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	4単位	時間数	90時間	履修 時期	通 年
担当教員名 (基本情報 / 資格)	森井 慎一郎 (非常勤講師 / 理学療法士) 森 優太 (非常勤講師 / 理学療法士) 山路 勇太 (非常勤講師 / 理学療法士) 清水 俊次 (非常勤講師 / 理学療法士) 江口 雅之 (非常勤講師 / 理学療法士) 木原 将歳 (非常勤講師 / 理学療法士)					コアカリキュラムコード	E-6-2 E-6-3 E-6-4		
						科目区分	専 門		

授業概要 (一般目標:GIO)	・中枢神経疾患、末梢神経疾患、発達に関する理学療法を理解し、運動療法の実践を学ぶ。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	・中枢および末梢神経疾患に対する理学療法について説明できる。 ・中枢および末梢神経疾患に対する理学療法評価および治療を実施することができる。 ・脊髄損傷の基礎的な知識を学び、評価から治療に至るまでを理解し、説明できる。 ・小児疾患に対する基本的な理学療法の進め方(一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理)について理解し、説明できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	神経系理学療法学総論	森
2	脳血管障害の基礎知識と評価	
3	脳血管障害に対する理学療法①	
4	脳血管障害に対する理学療法②	
5	パーキンソン病に対する理学療法	清水
6	脊髄小脳変性症に対する理学療法	
7	高次脳機能障害、意識・精神障害、高次脳機能検査【実技】	
8	姿勢反射検査、運動失調検査、バランス検査、筋緊張検査、バランス訓練、協調性運動【実技】	
9	中枢神経疾患に対する理学療法① ～外傷性脳損傷、脳腫瘍～	山路
10	中枢神経疾患に対する理学療法② ～筋萎縮性側索硬化症、多発硬化症～	
11	認知症	清水
12	感覚検査、反射検査【実技】	
13	末梢神経疾患に対する理学療法① ～末梢神経損傷～	山路
14	末梢神経疾患に対する理学療法② ～ニューロパチー～	
15	装具療法【実技】	清水
16	脳性麻痺に対する理学療法	
17	末梢神経疾患に対する理学療法③ ～筋ジストロフィー、多発性筋炎、皮膚筋炎、重症筋無力症～	山路
18	神経・筋疾患の評価【実技】	
19	基本的動作練習① ～寝返り・起き上がり～【実技】	森井
20	ADL介助・指導① ～寝返り・起き上がり～【実技】	
21	基本的動作練習② ～起立・着座、移乗～【実技】	
22	ADL介助・指導② ～起立・着座、移乗～【実技】	
23	姿勢・アライメント観察、動作観察	

回	授業内容	担 当
24	姿勢・アライメント観察、動作観察【実技】	森井
25	ADL評価、脳卒中の麻痺側運動機能の評価【実技】	
26	運動療法、運動学習【実技】	
27	基本動作練習③ ～歩行～【実技】	
28	脳血管障害ケースワーク①	
29	脳血管障害ケースワーク②	
30	まとめ	
31	脊髄損傷について 治療の歴史	江口
32	脊髄損傷の疫学	
33	脊髄損傷の疫学 日本の現状	
34	脊髄神経の解剖学	
35	脊髄神経の生理学 体性神経系	
36	脊髄神経の生理学 自立神経系	
37	脊髄損傷の評価	
38	脊髄損傷の神経学的評価(ASIA)	
39	脊髄損傷 不全損傷について 基本動作	
40	脊髄損傷者のADL・目標設定	
41	小児理学療法について	木原
42	発達について ①(運動発達)	
43	発達について ②(精神発達)	
44	重症心身障害について	
45	筋ジストロフィーについて	
46	発達障害について	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 ■ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト ■ レポート □ 発表 □ その他 基 準：各講師の担当範囲で各々試験を行う。→ 60点以上を合格とする。 最終評定は、各講師の担当比率で計算し、合算する。
教科書	「ビジュアルレクチャー神経理学療法学」(医歯薬出版) 「小児リハビリテーション医学」(医歯薬出版) 「脊髄損傷に対するPT・OTアプローチ」(MEDICAL VIEW)
参考書	「標準理学療法学 神経理学療法学」(医学書院) 「病気が見えるvol7 脳・神経」(MEDIC MEDIA)
準備学習 (学習へのアドバイス)	予習:授業内容に関する疾患や評価および治療について教科書、参考書を読み学ぶ 復習:授業で配布した資料や教科書、参考書をもとに理解を深める

【科目名】 内部障害理学療法学

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	60時間	履修 時期	通 年
担当教員名	岡田 恭子					コアカリキュラムコード	E-6-5		
基本情報	非常勤講師					資 格	理学療法士	科目 区分	専 門

授業概要 (一般目標:GIO)	・内部障害(呼吸器、循環器、代謝)に対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を習得する。また、内部障害及び高齢疾患に対しての運動療法の実践を学ぶ。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	・内部障害(呼吸器、循環器、代謝)の理学療法における評価の目的、方法、運動処方、治療手技の基本について学び、説明できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	内部障害 総論	岡田
2	循環器リハビリテーション	
3	循環器疾患 総論	
4	循環器系の解剖と機能	
5	各論 不整脈、心電図	
6	各論 心不全	
7	各論 虚血性心疾患	
8	各論 その他の血管疾患	
9	動脈硬化・代謝疾患	
10	運動負荷試験	
11	運動処方	
12	心筋梗塞の理学療法	
13	心不全の理学療法	
14	大動脈瘤・大動脈解離の理学療法	
15	糖尿病、腎臓病の理学療法	
16	まとめ	
17	呼吸器系の解剖学・生理学 ①	
18	呼吸器系の解剖学・生理学 ②	
19	呼吸機能評価、フィジカルアセスメント	
20	呼吸理学療法評価 ①	
21	呼吸理学療法評価 ②	
22	呼吸理学療法の実践 ①(リラクゼーション、呼吸練習)	
23	呼吸理学療法の実践 ②(排痰、呼吸介助)	

回	授業内容	担 当
24	運動療法	岡田
25	酸素療法、人工呼吸器	
26	COPDの理学療法	
27	COPD(在宅でのアプローチ)	
28	肺炎、嚥下障害の理学療法	
29	呼吸介助 ①	
30	まとめ	

授業形態	■ 講義 □ 演習 ■ 実技 □ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基 準：分野別に試験を実施する。(2回)60点以上を合格とし、評定は、2回の合計で評価する。
教科書	「標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学」(医学書院)
参考書	「指導士資格認定試験準拠 心臓リハビリテーション必携」(日本心臓リハビリテーション学会編) 「専門医のための循環器病学」(医学書院)「病気がみえる 呼吸器」(MEDIC MEDIA) 「ビジュアル実践リハ 呼吸心臓リハビリテーション」(羊土社)
準備学習 (学習へのアドバイス)	予 習：各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復 習：教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。

【科目名】 OSCE

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	5単位	時間数	105時間	履修 時期	通 年
担当教員名	岩崎 武史				コアカリキュラムコード		E-4-1		
基本情報	非常勤講師				資 格	理学療法士		科目 区分	専 門

授業概要 (一般目標: GIO)	・コミュニケーションと介助・検査測定を中心とした課題を設け、達成度を評価し、フィードバックを行う。臨床上必要な知識・技術・態度面の向上を図る。
学生が達成 すべき目標 (到達目標: SBO)	・臨床上必要な最低限の知識・技術・態度について理解し、実践できる。 ・態度面の重要性を学習し、向上を図ることで臨床場面で応用できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
1	標準予防策、リスク管理	岩崎
2	コミュニケーション技法	
3	療法士面接	
4	上肢管理	
5	1～4 確認テスト	
6		
7	車椅子介助	
8	血圧と脈拍の測定	
9	関節可動域測定 上肢	
10	関節可動域測定 下肢	
11	7～10 確認テスト	
12		
13	MMT 下肢	
14	MMT 上肢	
15	四肢 形態測定	
16	反射検査（腱反射、病的反射）	
17	13～16 確認テスト	
18		
19	感覚検査	
20	運動失調検査	
21	脳卒中の麻痺側運動機能の評価（BRS）	
22	脳卒中の麻痺側運動機能の評価（SIAS）	
23	19～22 確認テスト	
24		

回	授業内容	担 当
25	下肢装具の装着・介助	岩 崎
26	下肢装具の調整	
27	起き上がり 分析	
28	起き上がり 介入	
29	25～28 確認テスト	
30		
31	移乗（2人介助）	
32	移乗（1人介助）	
33	移乗	
34	立位バランス	
35	31～34 確認テスト	
36		
37	起立・着座	
38	歩行	
39	整形外科疾患別検査 drop arm test	
40	整形外科疾患別検査 下肢伸展挙上テスト（SLR）	
41	37～40 確認テスト	
42		
43	本試験	
44		
45		
46		
47		
48		
49		
50		
51	まとめ ①	
52	まとめ ②	
53	まとめ ③	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 ■ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法：□ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 ■ その他 基 準：実技試験(90%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。
教科書	「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定」(金原出版) 「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」(金原出版)
参考書	特に指定なし
準備学習 (学習へのアドバイス)	学生同士の小グループ(模擬患者役、療法士役、実施内容確認役)に分かれ、講義内容に記された項目を通して、臨床上必要な知識・技術・態度について学習する。数コマ毎に確認テストとして実技試験を実施する。各講義・試験には、複数の教員が関与する。

【科目名】 スポーツ理学療法学

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	30時間	履修 時期	後 期
担当教員名	松本 光司				コアカリキュラムコード		A-5 A-6-3 E-7-4 E-7-9		
基本情報	非常勤講師				資 格	理学療法士		科目 区分	専 門

授業概要 (一般目標:GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ理学療法の概要と考え方を学ぶ。 ・スポーツ活動支援における理学療法士の役割や実際について、実技を交えて学ぶ。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を習得し、実践できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	スポーツ障害学

回	授業内容	担 当
1	スポーツ外傷・障害の基礎知識 ①	松本
2	スポーツ外傷・障害の基礎知識 ②	
3	スポーツ現場における応急処置 ①	
4	スポーツ現場における応急処置 ②	
5	部位・疾患別のスポーツ理学療法 肩関節 ①	
6	部位・疾患別のスポーツ理学療法 肩関節 ②	
7	部位・疾患別のスポーツ理学療法 肘関節・手関節 ①	
8	部位・疾患別のスポーツ理学療法 肘関節・手関節 ②	
9	テーピング 足関節	
10	部位・疾患別のスポーツ理学療法 膝関節 ①	
11	部位・疾患別のスポーツ理学療法 膝関節 ②	
12	部位・疾患別のスポーツ理学療法 股関節・足関節 ①	
13	部位・疾患別のスポーツ理学療法 股関節・足関節 ②	
14	部位・疾患別のスポーツ理学療法 体幹 ①	
15	部位・疾患別のスポーツ理学療法 体幹 ②	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 □ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基 準：筆記試験60点以上を合格とする。
教科書	特に指定なし。
参考書	特に指定なし。
準備学習 (学習へのアドバイス)	講義に加え実技も実施する。(テーピング、アイスパック、弾性包帯、セラバンドなどを使用) 各自、ハサミを準備すること。

【科目名】 地域理学療法

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	30時間	履修 時期	前 期
担当教員名	坂口 隆一				コアカリキュラムコード		E-7-1 E-7-5		
基本情報	非常勤講師				資 格	理学療法士		科目 区分	専 門

授業概要 (一般目標: GIO)	・地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。 ・地域リハビリテーションの分野で理学療法が実施できるための実践的な支援についての方法を身に付ける。
学生が達成 すべき目標 (到達目標: SBO)	・地域リハビリテーションの定義、活動理念、関連領域とシステム、各々のサービス現状と課題について理解し、説明できる。 ・在宅で生活する高齢者が安心・安全に生活するために包括的な視点から理学療法の在り方を理解し、応用できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	高齢社会と福祉・医療(T)

回	授業内容	担 当
1	地域の老人福祉計画、介護保健事業計画	坂口
2	地域理学療法総論	
3	地域理学療法に関連する法制度	
4	社会資源と環境	
5	各疾患の評価と理学療法 ①	
6	各疾患の評価と理学療法 ②	
7	地域理学療法の展開 ①(障害児、高齢者、難病など)	
8	地域理学療法の展開 ②(")	
9	地域理学療法の展開 ③(")	
10	地域理学療法の実践 ①(事例を通して)	
11	地域理学療法の実践 ②(")	
12	地域理学療法のリスク管理	
13	危険予測(演習)	
14	これからの社会と地域理学療法	
15	まとめ	

授業形態	■ 講義 ■ 演習 □ 実技 □ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法 : ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基 準 : 筆記試験60点以上を合格とする。
教科書	「標準理学療法学 地域理学療法学」(医学書院)
参考書	「地域理学療法学」(MEDICAL VIEW)
準備学習 (学習へのアドバイス)	予 習 : 各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復 習 : 教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。

【科目名】 生活環境論

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	2単位	時間数	30時間	履修 時期	後 期
担当教員名	松枝 佑典				コアカリキュラムコード		E-5-3 E-5-6		
基本情報	専任教員				資 格	理学療法士		科目 区分	専 門
実務経験	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。5年間の臨床経験(介護老人保健施設、訪問リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。								

授業概要 (一般目標: GIO)	・社会的な問題を含めた生活環境の概念を理解し、生活環境整備や生活支援に必要な知識及び技術を習得する。
学生が達成 すべき目標 (到達目標: SBO)	・理学療法士に必要な生活支援に関する諸制度、障害別における生活環境整備の留意点等を説明できる。 ・福祉住環境コーディネーター2級レベルの内容を基に学習し、応用できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	高齢社会と福祉・医療(T)

回	授業内容	担 当
1	高齢者や障害者を取り巻く社会①	松枝
2	高齢者や障害者を取り巻く社会②	
3	高齢者や障害者を取り巻く社会③	
4	在宅生活における福祉用具の活用 ①	
5	在宅生活における福祉用具の活用 ②	
6	福祉住環境コーディネーターの意義	
7	障害のとらえ方と自立支援のあり方	
8	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境整備の考え方 ①	
9	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境整備の考え方 ②	
10	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 ①	
11	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 ②	
12	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 ③	
13	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 ①	
14	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 ②	
15	まとめ	

授業形態	■ 講義 □ 演習 □ 実技 □ グループワーク □ その他
学習資源	■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他
成績評価 (方法・基準)	方 法 : ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基 準 : 筆記試験60点以上を合格とする。福祉住環境コーディネーター検定2級の取得により、筆記試験は免除とする。
教科書	「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」(東京商工会議所)
参考書	特に指定なし。
準備学習 (学習へのアドバイス)	予 習 : 各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復 習 : 教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。

【科目名】 評価実習

学 年	3 年	学 科	理学療法学科	単位数	4単位	時間数	180時間	履修 時期	後 期	
担当教員名	林 修平(臨床実習担当)					コアカリキュラムコード		F-1 F-2 F-3 F-4 F-5		
基本情報	専任教員					資 格	理学療法士		科目 区分	専 門
実務経験	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。健康科学専攻修士課程を修了している。10年以上の臨床経験(通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、実習前の準備や実習中の学生サポート、実習後の学習成果を評価する。									

授業概要 (一般目標:GIO)	・臨床実習指導者の指導・監督の下、患者の状態等に関する評価を実施し、学習する。
学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO)	・検査測定を対象者に対し、実施できる。また、検査結果の関連性について説明できる。 ・検査項目・情報収集項目の抽出と取捨選択の理由を説明できる。 ・臨床現場で実習指導者による指導・監督のもと、理学療法臨床思考のプロセスを学び、実施できる。
人間総合科学大学 単位認定科目	該当科目なし。

回	授業内容	担 当
	学外実習施設における評価実習。(4週間)	林
	【 評価実習 目標 】	
	1) 職員、対象者に対して、社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い)がとれる。	
	2) 理学療法士の業務内容、位置づけ(他部門との関わり)を把握する。	
	3) 対象者の全体像の把握について指導下で理解できる。	
	4) 検査測定結果の統合と解釈について指導下で理解できる。	
	5) 対象者の生活機能をICFの観点で整理し、ケースを全体的・構造的に把握することについて指導下で理解できる。	
	6) 問題点の抽出について指導下で理解できる。	
	7) 各検査データを相互に影響を及ぼす因子を見つけ出しケースの障害像を把握することについて理解できる。	
	8) 問題点解釈の優先順位の設定について指導下で理解できる。	
	9) 対象者の理学療法の短期ゴールについて指導下で理解できる。	
	10) 対象者の理学療法の長期ゴールについて指導下で理解できる。	

授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> その他
学習資源	<input type="checkbox"/> 教科書 <input checked="" type="checkbox"/> 講義資料 <input checked="" type="checkbox"/> PC <input checked="" type="checkbox"/> モニター(プロジェクター) <input type="checkbox"/> DVD <input type="checkbox"/> 模型 <input type="checkbox"/> その他
成績評価 (方法・基準)	方 法 : <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> その他 基 準 : 経験症例報告書、理学療法初期記録表、実習後OSCE、実習報告会、振り返りノート など総合的に評価する。
教科書	特に指定なし。
参考書	「リハビリテーション基礎評価学」(羊土社) 「新・徒手筋力検査法」(協同医書出版社) 「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) 「PT・OTのためのOSCE」(金原出版) 「理学療法ハンドブック1～4巻」(協同医書出版社)
準備学習 (学習へのアドバイス)	「臨床実習学生の心得」「臨床実習教育の手引き」、実習関連資料を熟読し、実習に望むこと。 実習終了後、個別面談を行いフィードバックを行う。